

Column

「障害」の表記をめぐるって

障害の「害」の字が悪いイメージをひき起こすという理由から、最近では、自治体などで見直しが行われ、「害」を「がい」と書くところが増えていきます。しかし、「障」も「さしざわり」というような意味の漢字であり、「しょうがい」とすべてひらがながよいという意見もあります。同じ「がい」でも「碍」には社会的障壁という意味があることから、「障碍」という表記を薦める人もいますし、表記以前の問題として、「障害」という言葉そのものを見直すべきであるという意見もあります。

最近では、挑戦するチャンスや資格を与えられた人という意味で、「チャレンジド」という言葉も知られています。これは、障害を前向きに捉えるというひとつの試みですが、真の平等ということ考えた場合に、「どうして障害者だけが挑戦しなければならないのか」「逆に差別になるのではないか」といった疑問の声もあがっています。

表記の問題は複雑ですが、現状を広く知ってもらうためにも、議論の輪が広がることは必要でしょう。

*本書での「障害」の表記について

社団法人日本精神保健福祉士協会では、これまで「障害」という表記を使用してきました。権利擁護委員会では、障がい者制度改革推進会議や各団体の動向をふまえ、本協会での障害の表記の検討を提案していますが、検討の途上です。よって、本書では、これまで通り「障害」という表記を採用しています。